

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

いかなる国際情勢の中でも生き抜く人材育成をめざす。

1. 自分の意見を堂々と言える能力の育成
2. 得意技を身につけさせる
3. 進路指導の強化

2 中期的目標

1. 学力を向上させる

- (1) 学習の目標を明確に理解させる
- (2) 学習・学校行事・部活動・家庭生活時間をバランスよく配分できるよう自己の時間管理能力を高め、授業外での学習時間数を向上させる。
- (3) 少人数展開授業により学習理解を深化させる。
- (4) 3年生において入試対策に向けた学習がより効果的に進められるよう、1・2年生の学習内容の定着を図る。
- (5) 土曜日を学習活動のために有効活用する。
- (6) ICTを活用するなど、教員の授業力を向上させる。

※目標とする教育産業模試(年度最終)の平均点全国偏差値 (*は、3年生で数学が必要な生徒対象)

1年グローバル科			1年普通科			2年グローバル科			2年普通科		
国	数	英	国	数	英	国	数	英	国	数	英
55以上	53以上	58以上	53以上	52以上	52以上	55以上	53以上*	58以上	53以上	52以上*	52以上

※学校教育自己診断(授業外の学習機会)に対する生徒の肯定的回答90%以上を毎年維持。

※授業外での学習時間の目標を達成する。(週当たり時間)

1年グローバル科	1年普通科	2年グローバル科		2年普通科	
18.5時間	12.5時間	文系	理系	文系	理系
		19.5時間	19.5~20時間	14時間	14.75~15.25時間

※12月の生徒による授業評価で、3ポイント(1~4ポイントで評価)以上の教員を、平成26年度以降70%以上、全教員の授業アンケート総評の平均3.2以上とする。

2. 論理的思考力、批判的思考力及び表現力を鍛え、多様性を受入れる態度を醸成する

- (1) IM(グローバル科「学校設定科目」及び普通科「総合的な学習の時間」において開講)で論理的思考力及び批判的思考力育成する。
- (2) 各種講演会や研修会を開催し、主体的に興味を持ち意見を述べる態度を育成する。
- (3) 国際交流事業を積極的に展開し、多様性を受入れる他国の人と協同する態度を育成する。

※IMに対する生徒による授業アンケート3ポイント以上を毎年維持。

※各種講演会・研修会の事後アンケートで肯定的意見70%以上

3. 得意技を身につけさせる

- (1) 英語の4技能の向上を推進する。
- (2) 高大連携を推進し、より高度な学習への意欲を醸成する。

※英語の外部検定スコア目標(TOEFL iBTはチャレンジテストも含む) ※数値は累計

1年グローバル科	2年グローバル科	3年グローバル科
GTEC for STUDENTS+Speaking 760点以上 4名 655点以上 20名 535点以上 48名 395点以上 80名	GTEC for STUDENTS+Speaking 825点以上 4名 760点以上 12名 655点以上 32名 495点以上 80名 TOEFL iBT 40点以上 40名	TOEFL iBT 80点/ITP 550点以上 2名 TOEFL iBT 60点/ITP 500点以上 8名 TOEFL iBT 45点/ITP 450点以上 30名

※高大連携事業の実施後アンケートの肯定的意見70%以上

4. 進路指導を強化する

- (1) 入学時から難関大学の合格難易度について情報提供し、自らの進路目標を立てさせる。
 - (2) 定期的に学習習熟度を測定しながら、進路実現に向け支援する。
 - (3) 外部団体との連携により進路情報を提供し、進路選択を支援する。
- ※学校教育自己診断(きめ細かな進路指導)に対する生徒・保護者の肯定的回答を毎年70%以上維持
※大学合格数(現役)

海外大学、旧帝大、早慶上智大学等	難関国公立大、同立関学、MARCH	関大、他の国公立大
10	75	120

5. 修学が困難な生徒を支援する

- (1) 支援チームを立ち上げ個別のケースに対応する。
 - (2) 支援を必要とする生徒・保護者への相談体制を整える。
- ※学校教育自己診断(生徒の相談に丁寧に応じている)に対する生徒・保護者の肯定的回答70%以上を毎年維持

6. 教育効果を向上させるため校務を整理し、経験が少ない教員の育成を図る

- (1) 効果的かつ迅速に校内運営ができるよう、各部署の長に責任と権限を明確にするとともに校内組織を整理する。
- (2) 経験が少ない教員を主要ポストに任用し、人材の育成を図る。
- (3) 学校協議会の提言を参考にしつつ、学校教育の改善を進める。

7. 広報活動の充実を図る

- (1) 学校パンフレット等の広報媒体を充実させる。
- (2) 本校の教育方針・教育活動について、あらゆる機会・方法を活用して積極的に発信する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年12月実施分]	学校協議会からの意見
ほとんどの項目において昨年並みの現実度の数値となっている。 年来の課題である家庭学習時間の不足をどう増加させるかであるが、今年も課題として残った。新しい傾向として、2年生の理科系の学習時間が昨年比べ増加している。 記述では、今年度4月より正式に導入されたノークラブデーが、確実に実施されていないという意見をいただいた。教員の意思統一を図り実施を確かなものにする必要がある。	第1回 (6月3日) ① 論理的思考力をつけさせるような授業。特に書籍からの情報を取り入れ活用してほしい。 ② 入試改革を見通し授業観による、授業作りを行ってほしい。 第2回 (9月22日) ① 全教科を巻き込んだグローバル教育を行って、新学力をつけてほしい。 ② 海外に出ていく人材を一人でも多く育てるための「しかけ」を、数多く実施してほしい。 第3回 (1月5日) ① 相互の授業観察が活発に行える職場風土を醸成し、若手教員を育成してほしい。 ② SNS対策は常に講じる必要があるため、分掌・学年など組織を活用して進めてほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 学力を向上させる	<p>(1) 学習目標・内容・学習方法の明確化</p> <p>(2) スケジュール管理等による1・2年生の授業外学習時間の向上</p> <p>(3) 進路・習熟度別に講座編成し、学習内容の理解を深める</p> <p>(4) 日々の学習内容の定着を積み重ねる</p> <p>(5) 土曜日を有効な学習の機会として活用する</p> <p>(6) ICTの活用及びアクティブラーニングによる授業研究を進める</p>	<p>(1) 各教科の学習内容や目標・目的及び授業の進め方や家庭での学習時間の枠を意識した家庭での学習方法について説明を行う。</p> <p>(2) ①教科毎の1週間における授業外学習時間の目標を示す。 ②スケジュール管理帳を活用する。 ③補習、講習を効果的に実施する。</p> <p>(3) 2年生数学を進路別、2年生英語を習熟度別に編成する。</p> <p>(4) 小テスト、宿題考査、追試、指名者補習等を有効的に連動させる。</p> <p>(5) ①1・2年グローバル科は隔週に土曜授業を実施。 ②3年グローバル科は土曜必須講習を実施。 ③普通科は希望者講習を実施。</p> <p>(6) ①教員のICTを活用した授業研修を年2回実施。 ②アクティブラーニングの研修を年2回実施。 ③教員の「イチ押し授業」登録制度を継続実施し、教員の相互授業見学の機会を増やす。</p>	<p>(1) (4) (5) ・教育産業模試(11月実施)偏差値平均 グローバル科 1年：国 55 以上/数 53 以上/英 58 以上 2年：国 55 以上/数 53 以上/英 58 以上 普通科 1年：国 53 以上/数 52 以上/英 52 以上 2年：国 53 以上/数 52 以上/英 52 以上 (昨年度グローバル科 1年 国 58.8/数 54.8/英 59.4 2年 国 54.6/数 52.7/英 59.6 昨年度普通科 1年 国 51.7/数 49.5/英 50.1 2年 国 49.9/数 51.2/英 49.4)</p> <p>(2) 週当たりの授業外学習時間校内平均(時間)、昨年度を上回る。 <1年生> (昨年度 グローバル科：7.6/普通科：6.3) <2年生> (昨年度 グローバル科：文系 7.3/理系 7.5) (昨年度 普通科：文系 8.9/理系 7.5)</p> <p>(3) 教育産業模試(11月)学年平均偏差値 グローバル科：数学 53 以上/英語 58 以上 普通科：数学 52 以上/英語 52 以上 (昨年度グローバル科：数 52.7/英 59.6 昨年度普通科：数 51.2/英 49.4)</p> <p>(6) ①教員のICT活用率 70%以上 (昨年度 94%) ①②授業アンケート(2回目)の「教材活用」3.3以上 (昨年度 3.34) ③全教員の授業アンケート総評の平均 3.2以上 (昨年度 3.25)</p>	<p>(1) (4) (5) グローバル科 1年：国 55.0/数 52.4/英 57.5 (△) 2年：国 54.0/数 53.3/英 58.5 (○) 普通科 1年：国 52.5/数 51.1/英 50.5 (△) 2年：国 49.3/数 49.4/英 46.3 (△)</p> <p>(2) <1年生> グローバル科：5.6/普通科：6.0 (△) <2年生> グローバル科：文系 6.9/理系 9.9 (○) 普通科：文系 7.1/理系 8.8 (○)</p> <p>(3) グローバル科：数 53.3/英 58.5 (○) 普通科：数 49.4/英 46.3 (△)</p> <p>(6) ① 活用率 79% (○) ① 教材活用 3.33 (○) ② 総評平均 3.29 (◎)</p>
多様性を受入れる能力、問題解決能力、態度の醸成	<p>(1) ①論理的思考力・批判的思考力を育成 ②説得力のある論理的な文章を作成する能力を育成</p> <p>(2) 特別企画を実施し、多角的な情報収集力・思考力を育成</p> <p>(3) 語学力、多様性の享受、協同的態度、思考力を育成</p>	<p>(1) ①独自教材の更新を行い、思考力の向上を図る。 ②論理的な組み立てによる小論文作成力を習得させ、学校設定科目「グローバル情報」及び「社会と情報」と連携してプレゼンテーションソフトによる発表を行う。</p> <p>(2) 外部講師を招聘した講演会や討論会を実施する。</p> <p>(3) ①地域の学校支援NPOと連携した海外語学研修のみならず、他国の人々と議論・調整・協同する修学旅行等の実施 ②海外研修参加者数の向上を維持</p>	<p>(1) ①② IMに対する生徒による授業評価3ポイント以上 (昨年度 1年生 3.4 2年生 3.4)</p> <p>(2) 実施後アンケートで肯定的な回答 90%以上 (昨年度実施後アンケート肯定的回答 92%)</p> <p>(3) ①実施後アンケートで肯定的な回答 90%以上 (昨年度 修学旅行 100%) ②海外研修参加者数 40 名以上 (修学旅行を除く) (昨年度 40 名)</p>	<p>(1) ①② 授業評価 1年生 3.45 2年生 3.57 (◎)</p> <p>(2) 肯定的回答 95% (◎)</p> <p>(3) ① 肯定的回答 99% (◎) ② 参加者数 43 名 (◎)</p>
3. 得意技を身につけさせる	<p>(1) ①グローバル科における英語4技能の強化</p>	<p>(1) ①グローバル科においてはSETを活用し「英語超人」はじめTOEFL仕様の授業を履修させ英語4技能の力を段階的に育成する。</p>	<p>(1) ① 1年生 GTEC for STUDENTS+Speaking 760 点以上 4 名/655 点以上 20 名 535 点以上 48 名/395 点以上 80 名 2年生 GTEC for STUDENTS+Speaking 825 点以上 4 名/760 点以上 12 名 655 点以上 32 名/495 点以上 80 名 3年生 TOEFL iBT 80 点/ITP 550 点以上 2 名 TOEFL iBT 60 点/ITP 500 点以上 8 名 TOEFL iBT 45 点/ITP450 点以上 30 名 TOEFL iBT (チャレンジテスト) 60 点以上 8 名 ※数値は累計 (昨年度) 1年生 GTEC for STUDENTS+Speaking 760 点以上 0 名/655 点以上 8 名 535 点以上 47 名/395 点以上 78 名</p>	<p>(1) ① (△) 1年生 GTEC for STUDENTS+Speaking 760 点以上 1 名/655 点以上 20 名 535 点以上 56 名/395 点以上 80 名 2年生 GTEC for STUDENTS+Speaking 825 点以上 2 名/760 点以上 5 名 655 点以上 26 名/495 点以上 79 名 3年生 TOEFL iBT 80 点/ITP 550 点以上 1 名 TOEFL iBT 60 点/ITP 500 点以上 5 名 TOEFL iBT 45 点/ITP 450 点以上 8 名</p>

府立和泉高等学校

	<p>②普通科に対する英会話力養成の機会設定 (2) 高大連携を推進する</p>	<p>②週3日朝の8:00~8:30まで外国人英語補助教員(NET)に英会話講座を開講する(長期休業中及び考査期間中は除く)。 (2) ①大学教員の講義を受講させる。 ②部活動等と大学との共同研究を実施する。</p>	<p>2年生 GTEC for STUDENTS+Speaking 825点以上 1名/760点以上 3名 655点以上 16名/495点以上 74名 TOEFL iBT (チャレンジテスト) 40点以上(測定できず)</p> <p>3年生 TOEFL iBT 80点/ITP 550点以上 1名 TOEFL iBT 60点/ITP 500点以上 2名 TOEFL iBT 45点/ITP450点以上 26名</p> <p>②最終受講者数 30名以上 (昨年度 10名)</p> <p>(2) ①5回程度実施 (昨年度大阪府立大・大阪教育大学連携年5回) ②研究発表を行う (昨年度 日本化学会主催化学研究発表会で発表)</p>	<p>② 受講者数 10名 (△) (2) ①2回実施 (△) (大阪教育大・関西大 連携2回) ② 研究発表を行う (○) (日本化学会主催化学研究発表会で発表)</p>
4. 進路指導を強化する	<p>(1) 入学時から進路目標を意識させる (2) 学力生活実態調査や外部模試を実施し自分の学力と進路目標とを意識させる (3) 外部講師を招聘し将来への高い志を持たせる。</p>	<p>(1) ①入学時より大学ごとの偏差値等の情報を提供。 ②早期から大学のオープンキャンパスへ参加させる。 (2) 年2~3回の学力生活実態調査又は外部模試を全員受験させ、結果を個人面談や保護者懇談フィードバックし、以後の学習方針に役立てさせる。 (3) 生徒・保護者対象の教育産業等の講師による進路説明会を実施。 大学・大学院に在籍する卒業生を招聘し、大学の学びや魅力、自身の将来等について伝え、生徒の進路選択や高い志の涵養に寄与する。</p>	<p>(1)(2)(3) ・29年度大学センター試験の結果 各科目とも偏差値平均 52以上(ただし10人未満の科目は除く) (昨年度センター試験 16科目中、偏差値 52以上 8科目) ・29年度入試における難関大学現役合格数 【超難関大学群】 京大・阪大・神大 早稲田・慶応・上智・米国大学等 計10以上 (昨年度 2) 【難関大学群】 大阪市大・大阪府大 同志社・明治・立教 立命・関学・中央・青学等 計75以上 (昨年度 100) 和歌山大・関大等 計120以上 (昨年度 144)</p> <p>(2) 学校教育自己診断(進路についての面談や相談が十分に行われている)の生徒・保護者の肯定的回答70%以上を維持する (昨年度 生徒85% 保護者84%)</p>	<p>(1)(2)(3) ・センター試験 16科目中、偏差値 52以上 10科目 (○) ・大学現役合格者数 【超難関大学群】 (△) 京大・阪大・神大 早稲田・慶応・上智・米国大学等 計2 【難関大学群】 (◎) 大阪市大・大阪府大 同志社・明治・立教 立命・関学・中央・青学等 計106 和歌山大・関大等 計141 (2) 肯定的回答 生徒 87% (○) 保護者 80% (○)</p>
5. 修学が困難な生徒を支援する	<p>(1) 必要に応じて支援チームを組織する。 (2) 相談体制の充実</p>	<p>(1) 外部機関(医師、府教育庁及びカウンセラー等)、校長、教頭、担任及び校内の教育相談担当者からなる支援チームを組織し支援にあたる。 海外からの留学生に対して、地元関係団体と連携して日本語教室を開講する。 (2) ①スクールカウンセラーによる生徒及び保護者への教育相談を実施する。 ②相談室を日常的に開放する。 ③学期毎に就学対策委員会を開催し、支援が必要な生徒について情報共有し、必要に応じて合理的な配慮を講じる。</p>	<p>(1)(2)(3) 学校教育自己診断(生徒の相談に丁寧に応じている)の生徒の肯定的回答80%以上を維持する (昨年度肯定的回答85%)</p>	<p>(1)(2)(3) 肯定的回答 88% (◎)</p>
6. 整理し、若手教員の育成を図る	<p>(1) ①各部署の長の責任と権限を明確化 ②校内組織の整理 (2) 経験の少ない教員を積極的に登用するとともにミドルリーダーに育成する (3) 学校協議会を各方面から貴重な提言を得られる機会とする。</p>	<p>(1) ①責任と権限を明文化し、職員に周知させる。 ②校内の意思決定が円滑に進むよう校内組織を整理し職員に周知する。 (2) 分掌長や各種委員会の長に若手教員を登用し、新しい発想や提案を取り入れ、校内組織の活性化を図る。さらに校長・教頭・首席・指導教諭らによる経験の少ない教員リーダーへの指導助言を推進し、組織マネジメント力を育成する。 (3) ①年3回(5月・8月・1月)実施する。 ②学校協議委員以外にオブザーバーとして、卒業生等、教育産業の代表者を招聘する。</p>	<p>(1)(2) 職員による「校長の学校運営に関するシート」において、肯定的評価が80%以上を維持する 提案された企画の実施数2個以上 (昨年度肯定的評価96%) (昨年度提案された企画の実施数4個) (3) 学校協議会において、3分の2以上の委員からの「提言を学校運営に効果的に取り入れている」との評価を得る (昨年度全出席委員から)</p>	<p>(1)(2) 肯定的評価 100% (○) 企画の実施数 3つ (○) ・中学校訪問の方法変更 ・外務省職員による講演会 ・スマホ・ケータイ利用講習会 (3) 肯定的評価 (○) (全出席委員全員から)</p>
7. 広報活動の充実を図る	<p>(1) 学校紹介資料・媒体の刷新 (2) ①本校実施の学校説明会の内容充実 ②学校説明の資料改訂</p>	<p>(1) 学校パンフレットの更新 (2) ①本校生徒が主役となるような内容に刷新し、本校の生徒の姿を見て頂く。 ②校外における学校説明会や中学校訪問時の説明資料や提示方法の工夫・改訂を行う。</p>	<p>(1)(2) 学校パンフレットの配付部数 4500部以上を維持する (昨年度約4500部) 中学3年生進路希望調査における本校志願倍率 1.5倍以上を維持する (昨年度 第2回希望調査 1.59倍)</p>	<p>(1)(2) 配布部数 約4450部 (○) 希望調査 1.78倍 (◎)</p>